



左側：眼球は黒色であるが、体側にはほとんど黒色素が認められない。



右側：左側と同様、黄化している。



背面：わずかに大小の黒色点が散在している。

スケトウダラ黄化個体

漁獲年月日：2008年5月1日

漁獲場所：船川沖 300 m 底びき網

漁獲者：第三十三大雄丸（能登谷 勝 船長）

全長 412mm, 体長 382mm. 背鰭：11-18-20, 臀鰭：21-19, 胸鰭 18, 腹鰭 6

スケトウダラは本県底びき網漁業の重要対象魚で、最近では 400 トン／年程度が漁獲されている。今回漁獲された個体は、同時に漁獲された約 3 トンのスケトウダラに混じっていたもので、眼は黒色であるが全体に黄色で、黒色素を欠いた黄化個体と推察される。本個体は形態的に異常は認められなかったが、下顎のヒゲは著しく短く痕跡程度であった。黄化現象は、黒色素の生産が一部阻害されたことによると推察されるが、原因は不明である。